

清心道中金草鞋 十五



門 へ 13
 部 1346
 卷 15



越中直山方言修行金草鞋
 越中國新川郡立山権現の社に
 手力尾金命あり。當山文武天皇大寶元年二月十六日領王
 四條大納言有若卿の嫡男有賴卿夢想を感て
 京五智寺の慈朝師に謁し出家して名を慈良と改
 稱山を興ふ。立山権現の大宮。あつた王子春属の社を
 建於浄土山を興ふと云ふ。予一とを加越小坂にて祥雲登
 山し。諸寺あり。小坂山の莊嚴奇異ふて。実小人我を醒ま
 の靈場なれば。信念のあり。その光景をある。遠境人々
 参詣の便とある事あるなり。

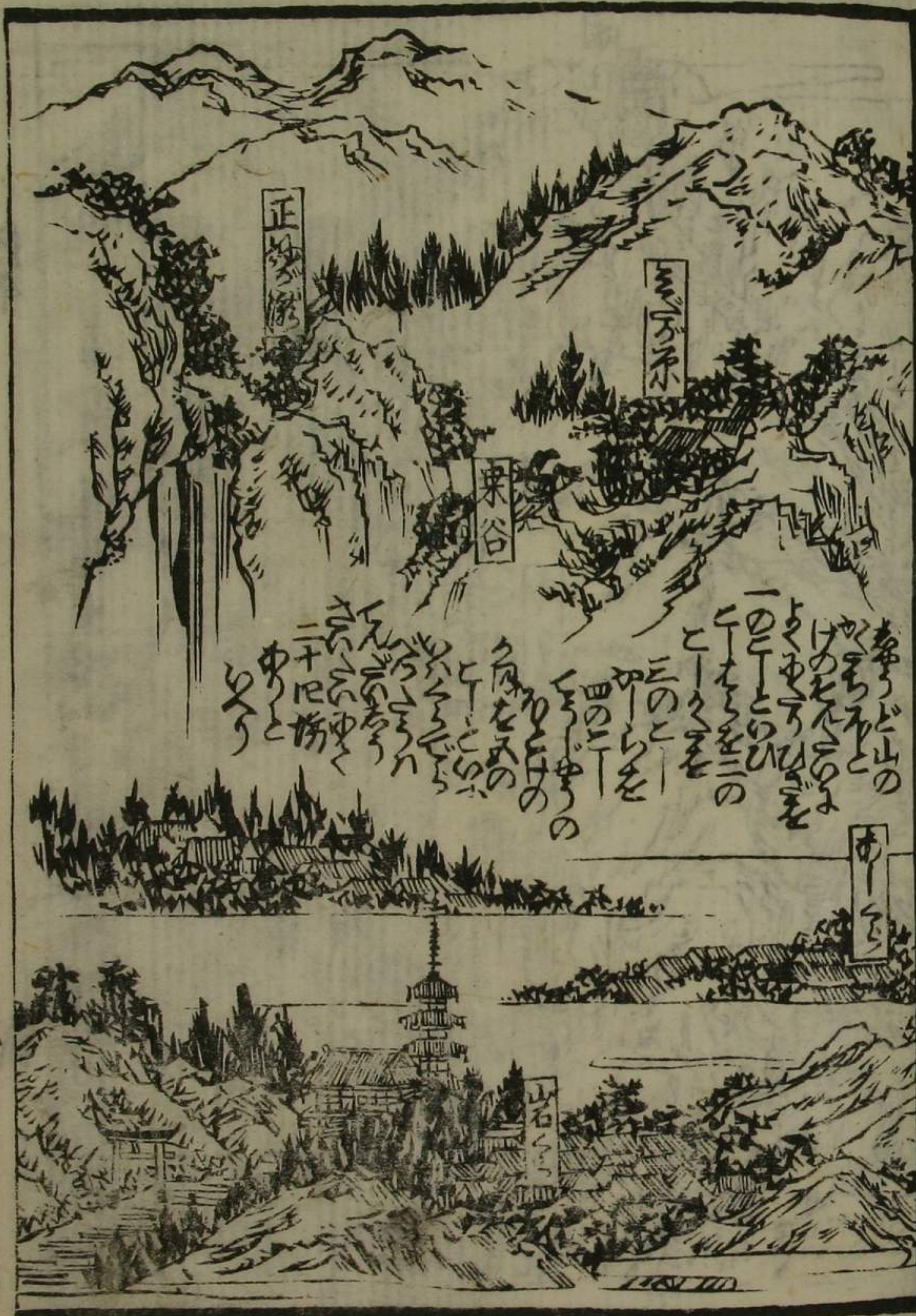
文政十二年戊子春岡市 十返舎一九誌

文政

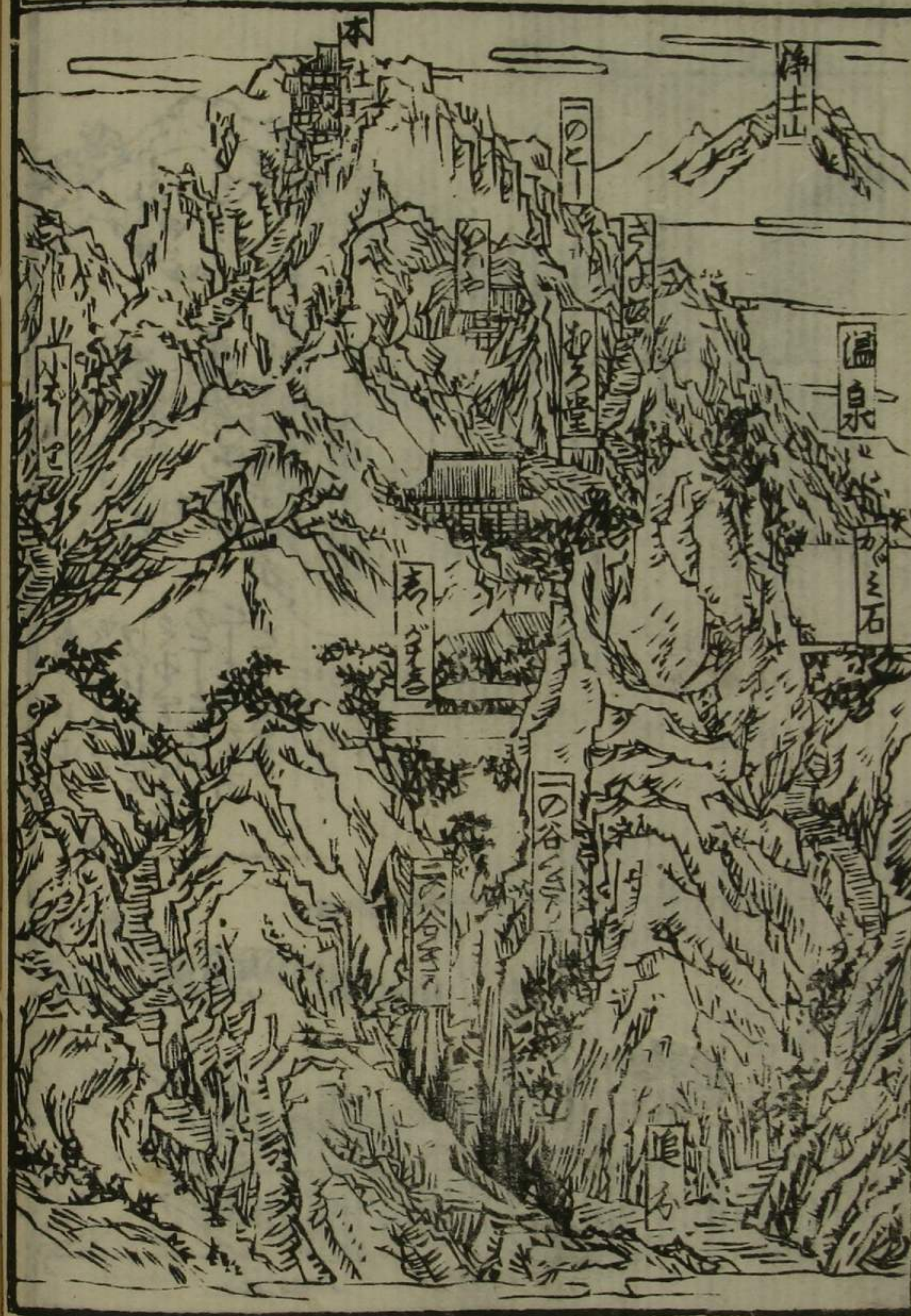
七

越中左の山之つ景

玉山壁立撫青
空鏡銀樓雲
梅月宮晚嚼
會仙壇畔雪
朗吟飛下
北溟風
鵬齋老人



其二



山中

山



立山め玉立
とる古市雪
之伏炎悪日
雪光行流河
次付海東村
即之背欲表

石師老人欲表

有馬川



戊午

五

余三



戊午

五

新漢川



静海



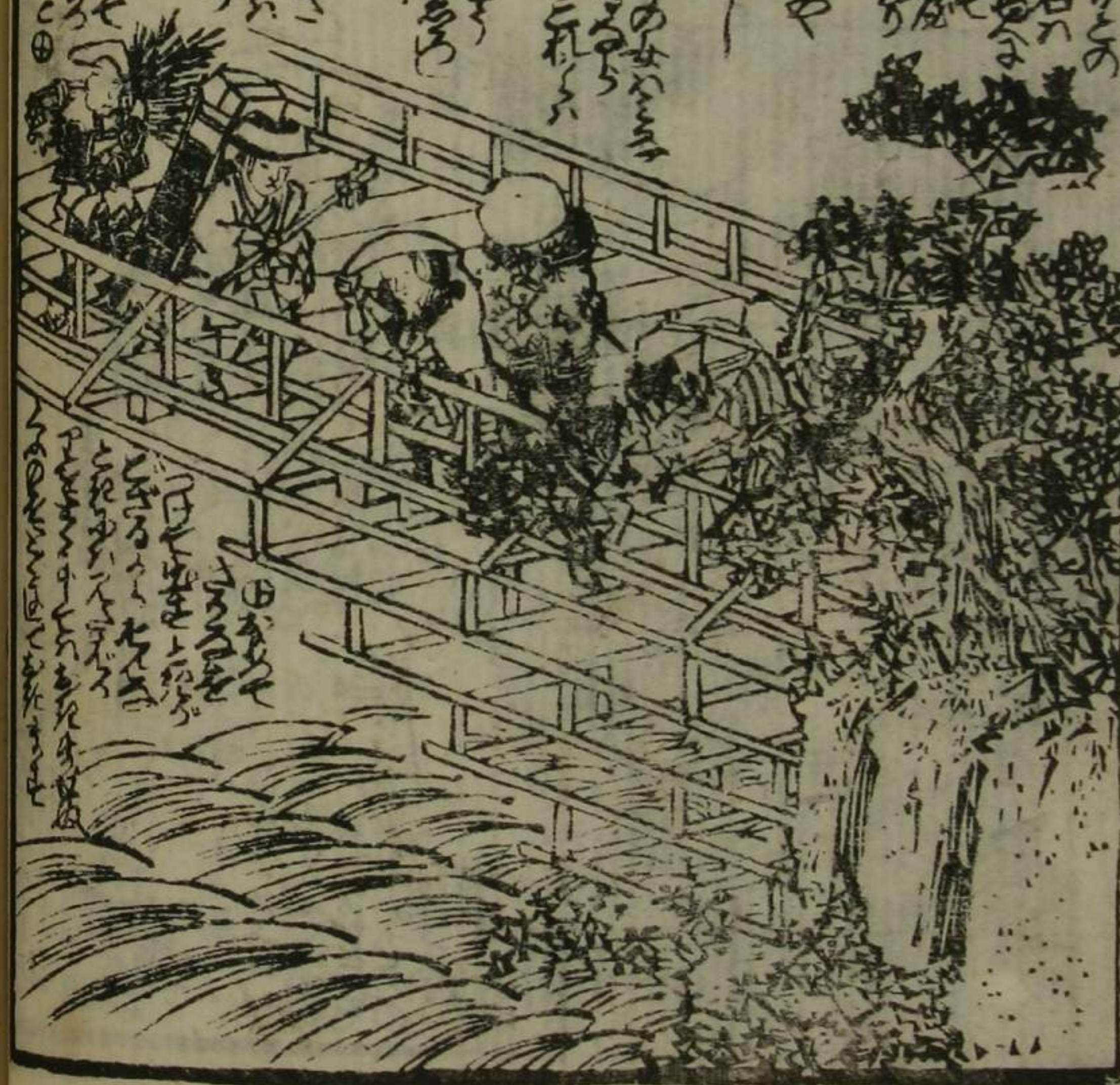
返馬

大甲

卷之七

事々として三日市のゆゑなるものとの
ちをめぐりては、あつたけあり川の石の
いふ丹川といふ川の中へ下らせあるはま
多くともなひひろひの川よりきて
この外のおもひなり川なるものを
（註）
水上の指しより
なごまよ
あつたけれとや
あらせと

あつて参れとや
あつてと
相持のなり

[illegible]

ちやほほの女がうはさうくくまのきりきり女
 いてるのうへにけり
 ④とらふりふ素人らうくくまきり
 ちやほほ

[illegible][illegible]

河川滑り津更



湯の川 石の砦



と富山 砦の石 江の横 血の掛



中

中

二谷タニ桑クワ 二舞マユ伏フス 二叔シヤク姪ミ美ミ

新よりびびりては
 夕暮きつありて
 のぞきありては女
 人きつをえんとて
 さいのきつをえんと
 そのきつをえんと
 上のきつをえんと
 下のきつをえんと
 左のきつをえんと
 右のきつをえんと
 前のきつをえんと
 後のきつをえんと
 上のきつをえんと
 下のきつをえんと
 左のきつをえんと
 右のきつをえんと
 前のきつをえんと
 後のきつをえんと



坂親國より原津中より

[illegible]

別山 五十丁
 後光石 橋立石
 白山権現 折立
 富士権現 蟻害
 行者 抱石
 別山帝釈天堂
 大走 小走り
 舟の河床地蔵堂

別山 五十丁
 後光石 橋立石
 白山権現 折立
 富士権現 蟻害
 行者 抱石
 別山帝釈天堂
 大走 小走り
 舟の河床地蔵堂



玉戸の宮阿門海陀
 赤坂の龍八所
 小窟 胎内
 花岩 揚基
 美久利の池
 加四冠院山
 血の流るる山

玉戸の宮阿門海陀
 赤坂の龍八所
 小窟 胎内
 花岩 揚基
 美久利の池
 加四冠院山
 血の流るる山



富山三小樹新



竹の之の橋



津煙



九十九丁のありき
 九十九丁のありき

三つに世の事
 るて中世に
 せんもつる
 けとるる
 せいのこ
 大甘じま
 せんてん
 りるとい
 ありその
 ち社中
 うえつに
 金沢の
 れは御
 せはま
 世の
 三つに

[illegible]

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

卷中

A small, dark, circular object, possibly a ring or a small bowl, with a textured surface. It appears to be made of a dark material, possibly wood or metal, and has a slightly irregular, handcrafted shape. The object is shown in a close-up, top-down view.

